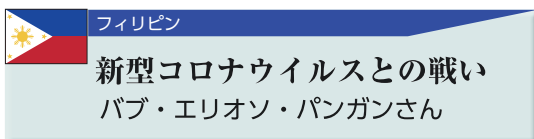


日本語と奮闘するのは何のため

8人の発表者が語った自身の体験と希望、抱負とは。



私は医者として働いています。腎臓内科が専門です。

2020年3月、まさか人生でパンデミックが起こるとは想像もできませんでした。私が働いている病院では、密を避けるため、病院のスタッフの数はいったん減らすことになり、1週間仕事をして、2週間休むことになりました。

4月に防護服を初めて全身に着た時は、閉所恐怖症を感じました。食べることも、飲むことも、トイレに行くこともできなかった8時間。途中で病棟から出ることは許されましたが、防護服を無駄にしたくなかったのです。

あの夜、防護服を脱いだ後はスッキリしてほっとしました。「やっとトイレに行けるんだ」「晩ご飯何しよっか」「あ、その前にシャワーだ」。自分へのごほうびはアイスクリームでした。

5月、私自身が新型コロナウイルスに感染してしまいました。透析ユニット当番で、私が接触した2人の看護師さんが感染。念のためPCR検査を受けました。症状は何もなく、元気だったのできっと陰性だと思っていたら、検査結果は陽性。すぐに入院させられました。



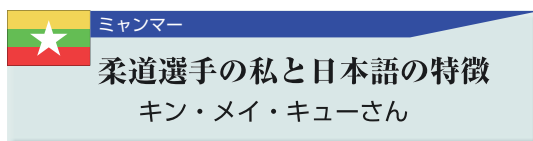
入院して患者さんの立場になって初めて、患者さんの気持ちが分かりました。孤独な気持ち、家族や友達に会いたい気持ち、感染したことで自分を強く責める気持ちとか。「油断したのかな？」って考えることもありました。こうして患者になったおかげで、患者さんとうまく向き合えるようになった気がします。

油断すると、このウイルスは一気に広がってしまう可能性もあります。注意しないとダメです。人混みを避けて、外に出る時はマスクをして、外から帰ってきたら手を洗って……、周りの大切な人を守ることに繋がっています。

私たちは新型コロナウイルスとうまく付き合っていかなければなりません。



日本に来るのは6回目。前回来日したのは2019年1月でした。今回、今までと違うのは、みんながいつもマスクを着けていること。日本語は趣味として学び続けたいです。



私は柔道がきっかけで日本語を勉強することになりました。

17歳の時、ミャンマー柔道連盟に行って柔道を始めました。日本人の指導者や選手がいて、柔道を日本語で教えているので、日本語の通訳もいました。



最初の頃は日本語を勉強する必要はないと思っていました。しかし、通訳の方が日本人の先生や選手たちと日本語で仲良く話しているのを見て、私も日本語を勉強し

たくなりました。違う言語の勉強は、始めた頃はとても大変でした。基礎クラスでひらがなを覚えるところまでは簡単でしたが、カタカナになると少し難しくなり、漢字になるともっと難しくなりました。そのため、私は毎日漢字をたくさん読んだり書いたりして勉強しました。会話も、より上達するために、マノーラマという無料教育僧院で会話中心のエリクラに通いました。

ある日、日本から柔道整復師の方々が柔道で起こりやすいけがや事故の説明会を開くため、私たちの連盟にやって来ました。以前は日本語が全然分からなかった私ですが、その説明会では日本語を聞き取ることができました。そして選手たちにミャンマー語に訳してあげました。日本語ができることで自分が同じ柔道仲間の役に立つことができ、言葉で言い表せないほど喜びが湧きました。

日本語を勉強したことで、柔道をより詳しく学べるようになりました。例えば、インターネットで柔道の技術を日本語で調べて、その新たに得た知識を同じ柔道仲間たちに伝えることができます。また、日本の文化と習慣についても学ぶことができました。

この経験を活かして、日本語も柔道も一生懸命頑張って、ミャンマー柔道連盟をもっと発展させたいと願っています。そして、いつか柔道の聖地である日本の講道館で学び、身に付けた

技術をミャンマーの選手たちや後輩たちに教え、皆が優秀な選手になれるよう支えたいです。

将来、ミャンマーで日本のスポーツである柔道を広められるよう、そして柔道をかけ橋としてミャンマーと日本の関係をもっと良くできるように努めたいと思います。



現在、柔道初段です。来日するのは2019年以來。その時はずっとバスでの移動でしたが、今回は電車に乗ったり歩いたりして勉強になります。1人で地下鉄に乗って初めて講道館に行きました。今でも感激しています。



マレーシア

苦勞がないなら

ムハンマド・ムハイミン・ハイルニザムさん

私にとって乗り越えるということは、自分ができないと思ったことを苦勞して成功させることです。

私は今、マレーシアにある日本の会社で働いています。主な仕事内容は日本人のお客さまの引っ越しを手伝うこと。引っ越し先の下見や、費用の見積もり、日程調整などを行っています。同じ事務所には日本人のスタッフが4人いて、毎日彼らと一緒に日本語を使って働いています。

この会社で働き始めて2年になりますが、入った当初はうまくいかないことばかりでした。仕事で使う日本語の言葉が難しいのです。特にショックだったのは、接客中にお客さまから「日本人に代わってください」と言われてしまったことです。

私は16歳の時から日本語を勉強しており、日本に行く予定で



した。ところが、コロナで行けなくなりました。それでも私はこの悔しさや悲しさをバネに、マレーシアで日本語を使う仕事を探しました。何度も面接を受けた結果、今の会社に合格。日本人と一緒に働くという目標を達成することができたのです。

私は今まで悔しい経験を、日本語を勉強し続けることで乗り越えてきました。だから、今回もできるはずだと思いました。仕事でうまくいかない悔しさを自分の成長につなげて乗り越えようと思いました。分からない言葉を何度も復習したり、敬語の教科書を買って仕事の休憩時間に勉強したりしました。すると、お客さまから「日本語が上手ですね」「良い対応をしてくれてありがとう」と言われることが増えてきました。中でも特にうれしかったのは、あるお客さまが私の上司に「ムハイミンさんの対応は素晴らしいので、早く名刺を作ってあげてください」と直接言ってくださったことです。そして、名刺を作ってもらうことができました。やっと自分の仕事ぶりが認められたのだと思ううれしくなりました。仕事を始めたばかりの頃の悔しかった経験を、自分の力で乗り越えられた瞬間でした。

私はこれからも日本人と一緒に働き続けたいと思っています。課題もたくさん出てくると思いますが、苦勞がないなら成長はありません。自分の壁を乗り越え、そしていつか、分からない日本語がなくなるくらい日本語を研究したいです。



仲の良い友達も日本語を勉強していて、彼とは日本語で話すようにしています。将来は日本で働きたいです。その経験をマレーシアに戻って活かしたいと考えています。



フィリピン

うつ病薬に学んだこと

マリリン・アンジェリナ・タン・ペRezさん



「頑張って!」と聞くと、仕事や勉強などを思い浮かべますよね? でも、大事なことが忘れられていないでしょうか。

生まれた時から、周りの人々は私たちに期待をしてくれます。そして、成長していくにつれて、期待も増えていきます。

私は元気な子どもでした。どんな活動にも積極的でした。ところが高校生の時、将来に関するプレッシャーを感じるようになりました。以来ずっと、休みの日でも勉強を絶えずするようになりました。そして、一番有名な国立大学に入学し、奨学金をもらい優等で卒業。どんなにストレスや苦しみを感じて、将来のためだから大丈夫だと自分に言い聞かせていました。

卒業して働き始めると、仕事での失敗の悔しさを仕事で埋めようとさらに働きました。でも、そうしているうちに、ストレスとみじめさの悪循環に陥ってしまいました。生きがい全然なくなり、生きることに疲れてたまらない気持ちに。我慢の限界に来ていたのです。

医者がうつ病薬を処方してくれました。そして、仕事をしないで休憩して回復を待つことになりました。いつも急いでいた私にとって、のんびりするの初めての経験でした。7カ月間、NetflixとYouTubeを見てばかり。一日中、寝ていることもあり。おかげで、体も心もゆっくり休憩することができました。

このような経験を通じて分かったのは、学校も職場も休息する大切さを教えてはくれないということ。人間には絶対に休息が必要なのに、積極的に求めなければ、休めないのです。

うつ病になる前は「勉強しなければ、働かなければ、競争に負けてしまう」「何もしないと人生を無駄にする」と感じて不安な気持ちになることがありました。でも今は違います。休んでいて何もなかった代わりに、自分の人生を救うことができました。興味あるものを再発見することができました。休んでいても、仕事をしていても、自分の価値は変わらないのだと理解できました。

だから、「頑張って！」という言葉は、仕事と勉強に限らないのです。休憩でも頑張ってくださいね！



化粧品など、製品の良さを紹介する SNS のインフルエンサーをやっています。私自身がモデルになって、話し方やいろいろなポーズを考えて演じることもあります。将来は翻訳者もやってみたいと思っています。



ラオス

私が日本語の勉強を始めたきっかけ
シラーポーン・サイヤラダさん

日本語に興味をもつようになったきっかけは、日本のアニメを見たことです。初めは、タイ語の声優が吹き替えをした日本の子ども向けアニメを見たので、日本語への興味はまだありませんでした。でも、中学生の頃、私は素晴らしいアニメを見て、あまりに新鮮で面白くて、目が離せなくなってしまいました。それは『ONE PIECE(ワンピース)』というアニメで、海賊が仲間と一緒に夢を追いかけるために世界を冒険する物語。問題が起きた時、

友達とお互いに助け合いながら一緒に敵と戦って、最後は友達同士の友情が勝ちます。それが感動的なのです。話の内容をもっと知りたかったので、日本語が分かるようになりたいと思いました。そしていつの間にか、日本の文化や社会などにも興味をもつようになっていました。

ラオス国立大学土木工学部に通いながらラオス日本センターで日本語の勉強を始めました。私の専門の土木工学と日本語は大きく違うので、勉強には苦労しました。でも疲れた時は、アニメを見て励まされました。先生たちが私の話をよく聞いてくれたり、いろいろなことを教えてくれたので、とても助かりました。去年、大学を卒業しましたが、今思い出すと、いろいろ苦労したことをとても懐かしく感じます。

アニメを見ると、良い言葉や漢字やことわざなどをたくさん知ることができます。でも、今はアニメだけではなく、日本の文化や社会などについても知ることができてよかったと思います。日本語の勉強を通して、マナーや礼儀、時間の大切さも学ぶことができました。

アニメからは、いつも知識や感動や励ましをもらいます。ですから、日本語を勉強することを選んだのは幸運だと感じています。これからもっと頑張って、日本語が上手になりたいです。



日本のことでアニメ以外に興味があるのは柔道や剣道などの武道です。伝統的なスポーツに関心があります。柔道は少しやったことがあります。柔道着はとてもかっこいいですね。

カンボジア

卒業後の計画

テット・ソッキーさん

私は将来、カンボジアのために働きたいです。その中でも、子どもたちの教育に関わる仕事をしたいと考えています。質の高い教育を受けることができれば、子どもたちは自分の目標や夢をもち、そして挑戦する勇気をもつことができます。



その前に、まずは私自身が、絶対にあきらめないで自分の夢に挑戦する。そのために今、大学で日本語を勉強しています。もっとたくさん勉強して、日本の企業でも経験を積みたいと思っています。

私は以前、プノンペンの日本語学校で働いたことがあります。そこで5Sについて学びました。5Sとは整理・整頓・清掃・清潔・しつけです。日本人は人を教育するのが上手です。良くないことをしたときは叱りますが、ただ厳しくするだけではありません。良いことをしたら褒めます。褒められると、会社の中で自分が役に立っていると感じます。私が一番好きな日本語は「笑顔」と「あいさつ」です。私は日本人から笑顔とあいさつが大事なことを教えてもらいました。朝は「おはようございます。今日もよろしくお願いします」。今日も頑張ろうという気持ちになります。仕事が終わって帰る時は「お疲れさまでした。気をつけて帰ってくださいね」。笑顔であいさつを交わすと、チームワークも生まれます。カンボジアにはあまりない習

慣ですが、私は笑顔とあいさつはとても大事だと思います。

私は日本人が日本でどんなふうに生活しているのか、学校でどんなふうに学んでいるのか大変興味をもちました。日本に留学できるチャンスがあれば、実際に経験したいです。「百聞は一見にしかず」ということわざがあります。私の目で見て、耳で聞いて、たくさんのことを学び、そして学んだことや経験したことをカンボジアの子どもたちにも教えてあげたい。国の役に立っていると、自分自身が誇りをもって生きていきたいのです。教育は私が一生をかけて続けていきたい仕事です。



今年の9月から日本に留学中。願いがかなってうれしいです。日本人はすごく優しいと感じています。道に迷っても助けてくれるし、乗り換えるときに乗り場まで案内してもらったこともあります。寮の友達もとても親切にしてくれます。

タイ

かなえたい夢

ニチャー・サムパイブーンさん

私の夢はアイドルになることです。

こんな夢をもち始めたのは9年前、『プリティーリズム』というアイドル系のアニメに出会ったときです。まだ10歳でしたが、自分の存在で人々を笑顔にできる仕事をとても素敵だと感じました。アイドルになりたいと、歌とダンスの練習を始めました。しかし、どんなに好きでも実際にタイでアイドルになるのはか



なり難しいことでした。なぜなら、私がこの道を歩み始めた頃のタイには、まだアイドルという存在はなかったからです。

そこへチャンスが降ってきました。日本のAKB48の姉妹グループ、BNK48のオーディションが初めてタイで開かれることになったのです。ワクワクしてオーディションに応募しましたが、最終戦までは進めませんでした。

BNK48が登場してから、アイドルグループが増えていき、ついにタイにも「アイドル」のコミュニティが誕生しました。

「これはチャンスだ!」と思い、ある事務所のオーディションに応募したところ合格。アイドルグループの一員として活動するようになりました。

「同じ夢をもつ他のチームメンバーと力を合わせて、このグループを有名にしたい」。難しい夢ですが、私には希望があります。絶対かなえたいと思っています。

「アイドル」になって初めて、アイドルは歌うことや踊ること以外にもやることがいっぱいあることを知りました。レッスンも厳しいし、イベントもたくさんあって、休みがありません。疲れますが、とても楽しいです。私を応援してくださっているファンの皆さんからも元気をいっぱいもらいました。「今日のライブ、本当に良かったよ!」と言ってくれる人がいるだけで、疲れが吹き飛んでしまいます。アイドルがファンに元気をあげるはずなのに、逆にもらう立場になるなんて不思議です。

これからの道のりはまだまだ長いですが、初心を忘れずに頑張っていきたいです。もっとたくさんの人に笑顔や幸せを届けたいのです。

いつか、タイも、日本や韓国のように、アイドルが認められる職業として働ける国になれるよう願っています。



アイドルの活動を休止して9月から日本の大学に留学しています。1年間勉強して、帰国したら活動を再開しようと思っています。将来、タイでも日本でも、多くの人を笑顔にできるよう頑張ります!



タイ

収穫期

カノクポーン・ウィラッチパンさん

皆さんは、みかんを食べたことがありますか。みかんには、甘いのも、すっぱいのも、苦いものもありますよね。

私が7歳の時、父と母が離婚しました。母



は、姉と私を実家に連れて行きました。おじ、おば、いとこと暮らすことになりました。母は毎日泣いていました。そして、バンコクへ出稼ぎに行きました。

そんな母がかわいそうでした。だから、学校が休みの日、おじとおばのみかん畑で働くことにしました。畑で働く子どもは私1人。「よく働くね」と、大人は私を褒めました。でも、遊んでいる子どもの姿を見ると、ちょっとうらやましかったです。

中学校は家から30キロも離れていて、通うことができません。学生寮に住むため、ウッドボールというスポーツのクラブに入りました。クラブに入ると、ただで学生寮に住め、お昼ご飯代ももらえるからです。

高校を卒業する時、バンコクで働いていた母が病気で倒れました。実家に戻った母は私に言いました。「大学へ行きたいかい?」でも、お

母さんにはもうお金がないんだよ」。「行きたい」と私。そして、大学に入るまでの2カ月間、コンビニでアルバイトをしました。

大学に入るとすぐ、週末にレストランでアルバイトを始めました。2年生の時、日本語の科目が不合格に。悔しかったけれど、もう一度頑張ることにしました。そんな時、大学が募集していた、日本の大学のサマースクールに応募しました。そして、奨学金をもらって、日本へ行くことになったのです。「やったよ!」。うれしくて母に電話しました。

初めて乗る飛行機から東京の街が見えました。「わあ～これが日本……」。わくわくしました。でも、サマースクールでの日本語が全然理解できません。そんな私に、先生が毎日みんなの前で話す練習をさせてくれました。おかげで、

話す勇気が出てきて、話すことが好きになりました。

「苦労は人を殺さない。生きていく方法を教えてくれる」と母はいつも言います。私は子どもの頃から働かなければならなかった「苦労」に感謝しています。

私たちの人生はみかんのようなものです。みかんを作るためには、いろいろな季節を乗り越えなければなりません。そして、どんなみかんになるかを決めるのは、自分です。私は、おいしいみかんを作りたいです。



2019年に日本を訪れました。その時が初来日でした。人々がいつもマスクを着用している以外は、日本が変わったとは思っていません。大好きです。将来は日本で仕事をしたいです。

地道な交流が世界平和へ



〈講評〉 桜美林大学 教授
馬越恵美子先生

対面で直接皆さんのスピーチを聞くことができ、とてもうれしいです。

発表者の皆さんは、話し方が自然で表情が豊かでした。笑顔がすてきです。苦難を乗り越えた努力が伝わってきました。

最近の国際情勢を見て感じるのは、人間にはウィズダム(知恵)とコンパッション(慈悲、共感)の両方が大切だということです。知恵だけでは「悪知恵」という言葉もある通り、まさに世界はそんな状態に陥っています。国家の指導者たちに他者への慈悲や共感があれば、もっと血の通った決断ができるはずです。

世界で行ったことがない場所は単なる地図

でも、行ったことがある場所は違います。そこには知っている人がいて、人々の心を感じ取ることができる。慈悲や共感が生まれるのです。日本語スピーチ・コンテスト優秀者を日本に招くのは、とても小さな取り組みかもしれませんが、それでも長年続けてきた結果、来日した若い人たちは何百人にも上ります。こうした地道な交流こそが、世界平和につながっていくのだと信じています。

今回、コロナ禍を乗り越えて再開できたのは、関係者の意志と決断があってこそ。「悲観主義は気分によるものであり、楽観主義は意志によるものである」という言葉があります。未来を明るくするために今、私たちに問われているのは、意志ではないでしょうか。この脈々とした流れがこれからも受け継がれていくことを願っています。

これからも 日本に関わり続けてほしい



ASEAN 日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業
コーディネーター
日外協 業務部主幹 中野裕道

ご協力いただいた関係者の皆さまに心より感謝したい。

コロナ禍の折、訪日できるかどうか、ぎりぎりまでハラハラし通しだった。とにかく無事にやり遂げることができ、ほっとしている。残念ながら、国内大会が中止となった4カ国からは参加できなかったが、来年以降はASEAN10カ国全てから代表を迎えられることを願っている。



「他己紹介」や「本人に関する〇×クイズ」を通じ、一気に互いの距離が近づく(24日、ヒューマンアカデミー 岩崎泉先生による日本語教室)



初めてのかつお節削り体験。苦戦しながらも楽しそう(24日、味の素川崎工場)

今回、例年と違っていたのは、参加者の日本語のレベルが高いこと。全員が普通に日常会話のやりとりができる。そんな参加者たちに日本をリアルに体感してもらう場を提供できとてもうれしい。2020年は中止、21年はオンライン

での開催だったため、その思いは一層大きい。参加した皆さんも、日本語を学ぶ同じ志をもつ仲間とリアルな空間と時間を共有することで、より多くのものを得られたのではないだろうか。



活版印刷体験。漢字を含めた活字の多さにびっくり(26日、凸版印刷印刷博物館)



自分自身の体調や体力を可視化できる最新のテクノロジーを体験(27日、パナソニックセンター東京)



ほとんどが書道初体験。苦手の漢字にも挑戦(28日、早稲田大学 国際学生友好会との日本文化体験)

参加者の中には、交換留学で現在日本に滞在していたり、現地の日系企業で働いていたりと、すでに日本に深く関わっている人たちがいる。その他のメンバーも、留学プログラムや企業のインターンシップに興味を示している。ぜひこのまま日本に興味を持ち続け、日本に関わり続けてほしい。